

修士論文

高齢者が持ち家を継承していくことの意味

——都市に住む単身女性の語りから——

2018 年度入学

九州大学大学院 人間環境学府 人間共生システム専攻
共生社会学コース 2HE18104M

入江彩夏

2020 年 1 月提出

【1 頁=40 字×30 行】

要旨

1 問題意識

住まいは、人々の生活構造に大きな影響を与えるため、多くの人にとって関心の高い問題であり、様々な側面から議論がなされてきた。近年は、住まいをめぐる問題の関心が、「買い物」から「片づけ」に移っており、なかでも高齢者の住む持ち家の相続に注目が集まっている。本論文は、(1)高齢者の相続に対する意識や考え方、期待について、それらがどのように形成され、何が影響してきたのかを明らかにすること、(2)持ち家が複数の世代の間で受け継がれていく中で、居住者や世帯における持ち家の果たす役割がどのように変化してきたのかを検討すること、以上2点を目的にしたものである。

2 先行研究

まず、多くの高齢者が持ち家を取得している現状、つまり持ち家社会について、住宅政策や制度の側面と居住者の側面、またイギリスの住宅政策との比較から、その成立背景を明らかにした。持ち家社会は、政府、企業、世帯が相互補完的な役割を果たしたことで成立したものであった。また、持ち家取得には安定的な雇用と家族形成、そして居住者の自助努力が前提とされていた。

つづいて、高齢者にとって持ち家がどのような役割を果たしているかについて確認した。高齢者は、収入、心身の健康状態、社会関係などに変化が起こる。これに対して持ち家は、生活保障や居住の安定、さらには介護サービスの場の提供といった形で寄与する。また、住み続けていく中で、持ち家はアイデンティティを象徴するものとなりうる。

次に、相続に関する議論のレビューを行った。相続は、高齢世代から若い世代への資産移転を意味する。持ち家の相続についても、住居という資産の保有の世代交代を通じて、次世代の生活保障が意図されている。しかし、平均寿命の伸長や晩婚化等により、子供世代は相続された持ち家を持て余してしまっている。こうしたことを受けてか、住居という資産と子供からの援助の交換関係は、成立していない。

最後に、社会学における住居の対象化について、主に都市社会学、家族社会学における議論を整理した。

3 調査

福岡県北九州市に住む3人の高齢者を対象に、半構造化調査票を用いた聞き取り調査と追加の電話調査を行った。調査対象者らのライフヒストリーや持ち家を取得したプロセスから、相続に対する考え方や意識を分析した。また、対象者世代とその子供世代の相続に対する考え方や意識についても、検討した。

調査によって得られた知見は、以下の3点にまとめられる。第一に、自助努力による持ち

家取得が奨励される制度の中で、親からの相続による持ち家取得は、リスク対処（良い住居の取得を通じた文化的な生活の確保）の親子依存と位置付けることができる。この点で、持ち家は資産としての意味があった。第二に、高齢者は直系家族制の規範を持っており、直系家族の器である持ち家は家系の連続性を象徴するものとして捉えられている。相続に対する考え方には、こうした直系家族制規範が影響している。とはいえ、高齢女性は相続における当事者ではなく調整者である。持ち家の相続に関して決定権がなく、直系家族制規範に拘束されている。一方で、相続について世代間を架橋する役として、積極的に受け止めている。第三に、世代間の相続に対する考え方の相違は、世代を経るにつれて持ち家に対する意味付けが変化していることを示唆している。親から持ち家を相続した高齢者は、若いころから親の持ち家を資産として利用してきた。また、直系家族の器として、世代を超えて受け継いでいくものとして捉えている。一方で、高齢者の子供世代は、親との同居を避けて自ら持ち家を取得しているため、持ち家を資産として利用することがなかった。また、持ち家は、夫婦家族の器であり、それゆえに一代限りのものとして捉えている可能性がある。こうした持ち家に対する意味付けの変化が、相続の際に考え方の相違として表れている。高齢者は、子供世代の持ち家に対する意味付けや捉え方を理解しており、相続に対する考えや意識の変化のただなかにいるとみなすことができる。

4 まとめ

社会構造や家族と家族に関する規範の変化は、持ち家の果たす役割や意味を縮小させていると考えられる。「住居」が「住宅」としてしかとらえられなくなったとき、継承は意味をなさなくなる。人々の生活や文化を受け継いでいく器としての住居という視点が重要である。

目次

- 1 はじめに.....エラー! ブックマークが定義されていません。
 - 1.1 本論文の背景.....エラー! ブックマークが定義されていません。
 - 1.2 本論文の目的と構成.....エラー! ブックマークが定義されていません。
 - 1.3 住まいをめぐる言葉についてエラー! ブックマークが定義されていません。
- 2 先行研究の整理.....エラー! ブックマークが定義されていません。
 - 2.1 高齢者の持ち家取得.....エラー! ブックマークが定義されていません。
 - 2.1.1 住宅政策・制度からみる持ち家社会の成立エラー! ブックマークが定義されていません。
 - 2.1.2 居住者から見る持ち家社会の成立エラー! ブックマークが定義されていません。
 - 2.1.3 住宅政策の国際比較から見る公営住宅の位置づけエラー! ブックマークが定義されていません。
 - 2.1.4 小括.....エラー! ブックマークが定義されていません。
 - 2.2 高齢者にとっての持ち家.....エラー! ブックマークが定義されていません。
 - 2.2.1 生活の基盤としての持ち家エラー! ブックマークが定義されていません。
 - 2.2.2 アイデンティティの象徴としての持ち家エラー! ブックマークが定義されていません。
 - 2.3 相続に関する議論.....エラー! ブックマークが定義されていません。
 - 2.3.1 相続が果たす役割.....エラー! ブックマークが定義されていません。
 - 2.3.2 相続に対する意識.....エラー! ブックマークが定義されていません。
 - 2.4 社会学における住居.....エラー! ブックマークが定義されていません。
- 3 調査.....エラー! ブックマークが定義されていません。
 - 3.1 調査概要エラー! ブックマークが定義されていません。
 - 3.1.1 調査実施日時と調査方法.....エラー! ブックマークが定義されていません。
 - 3.1.2 調査対象者についてエラー! ブックマークが定義されていません。
 - 3.1.3 調査地——北九州市の住宅状況 .エラー! ブックマークが定義されていません。
 - 3.2 調査結果.....エラー! ブックマークが定義されていません。
 - 3.2.1 持ち家にたどりつくまでのプロセスエラー! ブックマークが定義されていません。
 - 3.2.2 持ち家の相続に関する意識エラー! ブックマークが定義されていません。
 - 3.3 調査のまとめ.....エラー! ブックマークが定義されていません。
- 4 考察.....エラー! ブックマークが定義されていません。
 - 4.1 相続による持ち家取得.....エラー! ブックマークが定義されていません。
 - 4.2 高齢女性の持ち家の意味付けエラー! ブックマークが定義されていません。
 - 4.3 相続の世代間の相違からみる持ち家の意味の変化エラー! ブックマークが定義され

ていません。

5 おわりに.....エラー! ブックマークが定義されていません。

[注].....エラー! ブックマークが定義されていません。

[文献].....エラー! ブックマークが定義されていません。